

# TAKE NINAGAWA

Take Ninagawa

2-12-4 HigashiAzabu, Minatoku

Tokyo 1060044 Japan

tel&fax:+81-(0)3-5571-5844

info@takeninagawa.com

www.takeninagawa.com

ケン・オキイシ

「(Goodbye to)」

2012年2月18日(土)～3月31日(土)

関係者各位

拝啓 春寒の候、皆様にはますますご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

この度、Take Ninagawaでは、ケン・オキイシのTake Ninagawaで初となる個展を「(Goodbye to)」と題し、2012年2月18日より3月31日まで開催する運びとなりましたことご案内申し上げます。

展覧会タイトルにもなっている「(Goodbye to)」はオキイシの長編ビデオマッシュアップ(*Goodbye to Manhattan* (2010))から付けられており、またその作品タイトルは、ウディ・アレンの、失われつつある錯誤的ニューヨークへのオマージュ作品「Manhattan」(1979年)と、ドイツのワイマール時代を舞台にしたクリストファー・インシャーウッドの短編小説「Goodbye to Berlin」(1939年)からリファレンスをとっています。2006年から3年以上をかけてつくられたこの映像は、欲望と憧憬が複雑に絡み合ったプロジェクションとしてニューヨークとベルリンを舞台に、作家の自己実現のための現代的モチベーションを表します。映画「Manhattan」からとられたオリジナルのフッターが、オキイシがベルリンで近い作家達と撮影した新しいフッターと混合され、更には、ドイツ語で翻訳された映画の字幕を、また英語へ再翻訳することによって、ダイアローグを生成しています。

オキイシの日本で初となる展覧会「(Goodbye to)」は、更に三つ目の要素、東京を加えることによって、むしろ都市の名前は無効になり、新たな要素の集積、又は置換という潜在的な無限性を与えました。展覧会には「(Goodbye to) Manhattan」に加え、現在のニューヨークの街を写した写真がオリジナル映画のロビーカードに写るアレンのロマンティックで祝祭的なニューヨークのイメージを覆うようにコラージュされた作品シリーズ「(Goodbye to) Manhattan lobby card」と、不動産物件を扱うウェブサイト StreetEasy.com から引用した、1916年から18年にマルセル・デュシャンが住んでいた西67丁目のマンハッタンのアパートメントのイメージを引用した作品「Marcel Duchamp on StreetEasy.com」シリーズが展示されます。

神経に障るような、壊れた美的センスをもつこれらの作品からは、現代的な感覚としての転置 (Displacement) と、近い将来と近い過去への強い憧憬が伺えます。近年の社会的構造とテクノロジーの発展によって誘発された興奮と不確かさによって、私たちは、先人の生き方を再現したいという欲求—それは道が既に記されているのでとても誘惑的である—と、新しいコンテキストの中で、つまり新しい街の身体的空間から、インターネットの身体のない空間までにおいて、私たちが改革するか、その狭間で悩み果てています。どちらかを美化するのではなく、オキイシは現在に生きるという気高い不器用さを提示します。

皆様にはぜひご高覧賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

敬具

2012年2月

Take Ninagawa

ケン・オキイシ

1978年アイオワ生まれ、現在はニューヨークとベルリンを拠点に活動。2001年にニューヨークのクーパーユニオンを卒業。以来、Performa 09、ギャビン・ブラウン、グリーン・ナフタリ、アーティスト・スペース、ダニエル・ライヒ、フィラデルフィア現代美術館、チェルシー・アート・ミュージアム、アメリカン・ファイン・アーツなどでグループ展に参加。2010年にニューヨークのアレックス・ザッカーリー/ピーター・カリーで初個展を開催。今展で出展する映像作品「(Goodbye to) Manhattan」は、昨年、アンソロジー・フィルム・フェスティバルで紹介されました。